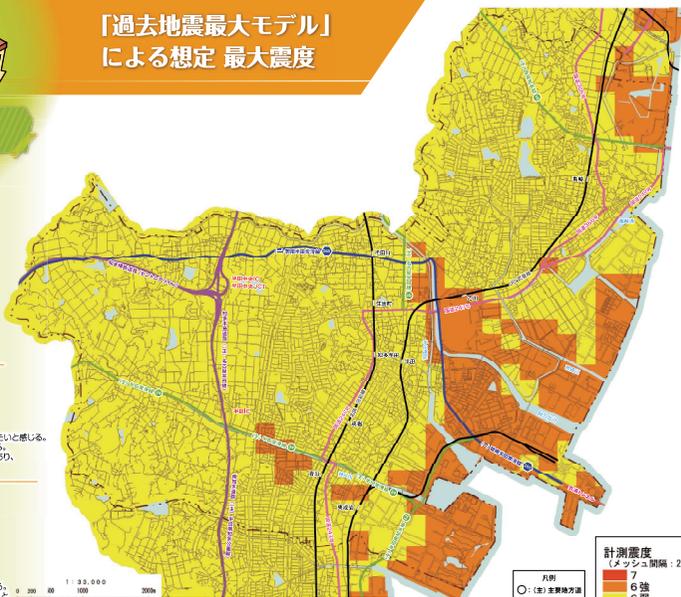




## 「過去地震最大モデル」 による想定 最大震度

### 震度マップ の使い方

- 震度1**
- 室内にいる人のほとんどが揺れを感じる。
- 震度2**
- 電線が大きく揺れる。
  - 扉や窓の下の下部が物と大きく揺れる。
  - 扉の悪い箇所が、傷れることがある。
- 震度3**
- 大半の人が、恐怖を感じる。物につかまらなさと感じる。
  - 扉にある設備や物が落ちることがある。
  - 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものも倒れることがある。
- 震度4**
- 物につかまらなさと形こが壊れる。
  - 扉にある設備や物で落ちるものがある。
  - 固定していない家具が倒れることがある。
  - 傾倒して倒れないブロック壁が倒れることがある。



計測震度  
(メッシュ間隔: 250m)

凡例  
○ (●) 主要地方道  
○ (—) 一般国道



## 「過去地震最大モデル」 による想定 液状化危険度

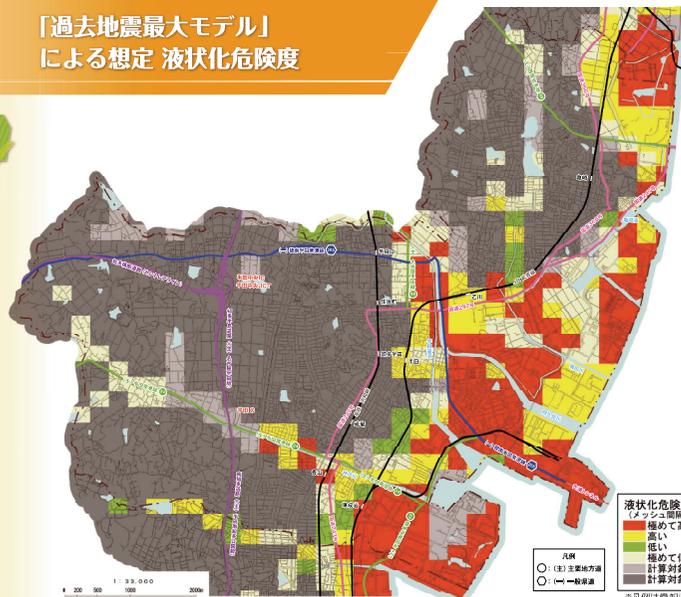
### 液状化による 被害例



- 噴き出す泥土・沈下・陥没が激しいと通行に支障がでる。
- 沈下が大きいと雨や海水の流入による浸水が生じる。



- 地盤を支えられていた建物や工作物が沈下する。沈下が様々でなく、建物が傾き居住性が損なわれ健康にも影響がでる。



液状化危険度  
(メッシュ間隔: 250m)

極めて高い  
高い  
低い  
極めて低い  
計算対象なし  
計算対象外

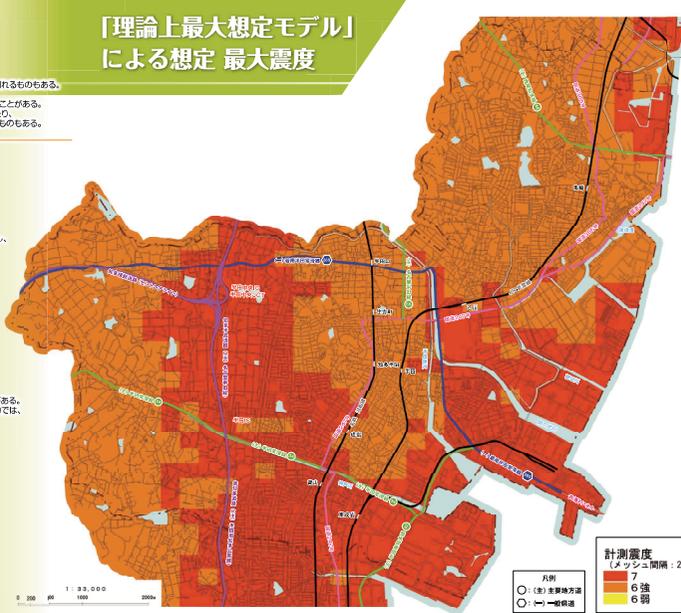
凡例  
○ (●) 主要地方道  
○ (—) 一般国道

※凡例は愛知県公表に基づいています。



## 「理論上最大想定モデル」 による想定 最大震度

- 震度6**
- 立つていることが困難になる。
  - 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。
  - ドアが開かなくなることもある。
  - 扉のオイルやガスが漏れ、炎が下ることがある。
  - 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。
- 震度7**
- 立つていることができない。
  - 倒壊されるものもある。
  - 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものがある。
  - 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがある。
  - 地震が生じたり、後継地の崩落が発生することがある。
- 震度8**
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが多い。
  - 耐震性の高い木造建物でも、傾くものがある。
  - 耐震性の低い高層コンクリート造の建物では、倒れるものが多い。



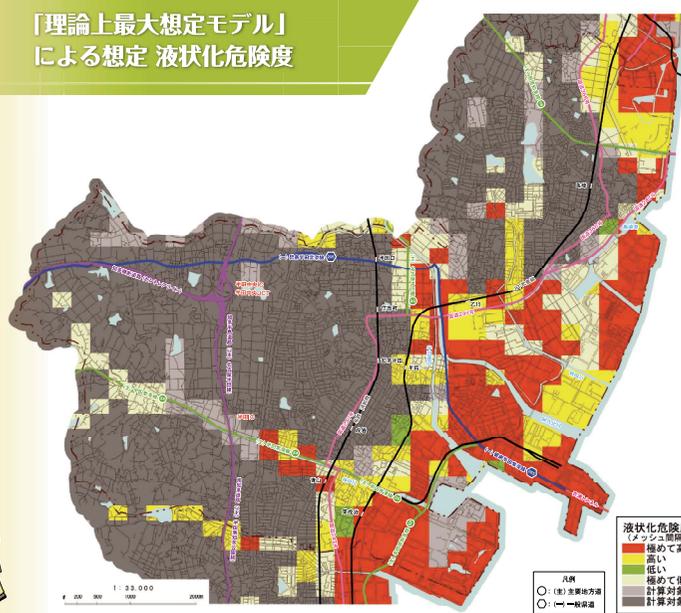
計測震度  
(メッシュ間隔: 250m)

凡例  
○ (●) 主要地方道  
○ (—) 一般国道



## 「理論上最大想定モデル」 による想定 液状化危険度

- 地中の軽い構造物(中空のマンホールや浄化槽など)が地面から浮き上がる。
- 地中にある埋設管にも影響がでる。



液状化危険度  
(メッシュ間隔: 250m)

極めて高い  
高い  
低い  
極めて低い  
計算対象なし  
計算対象外

凡例  
○ (●) 主要地方道  
○ (—) 一般国道